

No.	カテゴリー	意見	方針	案頁
1	その他	ムーバスを大型車いすで利用する際は、車内が狭いため、車いす用のスペースに固定するための方向転換が非常に難しく、他の利用者も車内の移動が難しくなる。大型車いすでの利用が前提とされていないのだと感じ、もう少し良い方法がないのだろうかと思った。	ムーバスは狭い道を通行するために小型車両を採用しており、車両の改善には限界があります。 そのため、リフトタクシーつながりの情報提供による利用促進等を記載します。	P36
2	事業・テーマ別方針 情報伝達事業	障害者が情報を入手する機会はかなり限られており、ホームページや案内板に情報が出ていても、全ての障害者がインターネットを活用するのは難しい。 また、外出先で困ってしまうことも多々ある。紙ベースのパンフレットや、単純な情報に特化して1枚にまとめた分かりやすいチラシなども柔軟に取り入れてほしい。	ご意見を踏まえて、高齢者や障害者に配慮したエレベーター、トイレ、駐車施設等について情報提供を受け、バリアフリーマップの作成を検討することを記載します。 また、情報収集に制約のある人への適切な対応について、積極的な取組みを促すことや既存の案内板へのピクトグラム追加による分かりやすさの改善など、取組みの充実を図ることを記載します。	P34
3	事業・テーマ別方針 情報伝達事業	らくらくおでかけネットの情報更新や、東京都のユニバーサルデザインナビなど、他の既存のシステムに乗っかっていく施策が挙げられているが、このような取組みのみで本当に必要としている人がアクセスでき、求めている情報を入手できるのか。	ホームページのアクセスビリティの向上や既存のWEBコンテンツを利用した各施設のバリアフリー情報の充実について記載します。 また、新技術を活用することやその新技術をうまく活用できない人へのサポートの必要性についても記載します。	P34 P72
4	事業・テーマ別方針 情報伝達事業	既存のプラットフォームに情報を乗せていくのは第一歩としてはありうる。それすらできていないところも多くある。そこで終わってはいけない。		
5	事業・テーマ別方針 情報伝達事業	いま、情報が足りないことでどのようなバリアが存在しているのか、どのような情報をどのように提供すれば課題が解決するのか、基礎ニーズの把握から始める必要がある。膨大な情報をどう生活者にとって役に立つ形に転化していくかが重要である。 武蔵野市ならではの紙のマップを検討するのであれば、対象者の設定や情報提供内容のあり方等の検討から始める必要がある。	市内の施設設置管理者から高齢者や障害者に配慮したエレベーター、トイレ、駐車施設等について情報提供を受け、バリアフリーマップの作成を検討します。作成に際しては、実情や利用者の使い勝手を踏まえ、内容を整理した上で行う旨を記載します。 (No.2～4回答参照)	P34
6	まち歩きを踏まえた 意見交換	誘導用ブロックが設置されるのは良いことだが、高齢者にとってはつまずきの原因となる。スロープを降りることに夢中になっていると段差があることを認識できていない高齢者が多いので、段鼻を目立たせることや手すりの設置は非常に重要である。 通路から競技場の中に入るところで変な角度のカーブになっている箇所、観覧席からトラックに降りる最後の階段の先に5cmくらいの段差があり、階段を降り切ったと思って転んでしまう恐れがある。	バリアフリー化に対するニーズはさまざまであり、障害の特性等によって求めるものが相反する場合もあります。高齢者、障害者等の利用者同士の相互理解のもと、行政や事業者と連携して課題の解消につながる対策方法を検討していくことが重要であることを記載します。 行政だけではなく、武蔵野市民及び市内の企業・団体は、積極的に対話の場を設け、バリアフリーの推進に努めるものとします。 当事者参加の仕組みの検討について記載します。 また、いただいた意見について、施設の所管課にお伝えします。	P15 P39
7	まち歩きを踏まえた 意見交換	バリアフリーとバリアが障害の種類によってトレードオフの関係であることを確認できるような記載ができるとよい。相反する課題に直面することがあるという認識を持っていることを記載した方がよい。		
8	まち歩きを踏まえた 意見交換	当事者の意見の中で出てきたトレードオフの課題について、専門家やデザイナーも交えて検討し答えを見出していくことが必要である。		

No.	カテゴリー	意見	方針	案頁
9	まち歩きを踏まえた意見交換	卓球場の入口(壁側)に手すりが設置されたとのことだが、ついた手すりは壁側だけか。本来、手すりは両側に必要だと思う。		
10	まち歩きを踏まえた意見交換	スロープに手すりがないという指摘に対し、手すりを付ければよい、という解決を下してしまい、転落防止という視点が抜けていたのではないか。	いただいた意見について、所管課にお伝えします。	-
11	まち歩きを踏まえた意見交換	手すりがついていても柱の間隔が広ければ子どもは落ちてしまうので、間隔の検証も必要である。		
12	まち歩きを踏まえた意見交換	ムーバスは、障害者総合センターと障害者福祉センター、保健センター、市役所を結ぶ路線が欲しい。また、障害者総合センターと障害者福祉センターを間違ってしまう人も多く、間違ってしまうからは徒歩では移動が難しく会議等に間に合わないことが多く見られる。	いただいた意見について、所管課にお伝えします。	-
13	まち歩きを踏まえた意見交換	ベビーカー利用者の立場からも、狭い道路の誘導用ブロックはガタついて通れないという問題がある。子どもが転ぶ原因にもなり、妊婦が小さい子の手を引いているときなどはより危険が高まる。	(No.6~8回答参照)	P15 P39
14	まち歩きを踏まえた意見交換	多様な意見があるので、全ての人が100%満足できる対策はあるのだろうかと悩む。意見と基準のすり合わせが重要だと感じた。		
15	まち歩きを踏まえた意見交換	コーディネーター役が重要である。障害当事者の意見が100%正しいわけではないこともある。また、一人の意見が公共空間整備の答えにはならないこともあるので、多様な当事者の中にあつて不合格になる人が出ないような解の出し方について検討が求められる。このような観点に関しても基本構想の文章記述に反映されることを期待したい。	基準やガイドラインを基本としつつ、それだけでは判断できない部分や柔軟に検討できる部分については、多様な当事者意見を踏まえて整備内容の改善を図っていくことが重要と考えています。 当事者参加の仕組みの検討について記載します。	P39
16	まち歩きを踏まえた意見交換	JIS規格や最低基準がある中で、時代によって変化していく要求水準や、施設の特色に合わせて求められるものにも配慮していく必要がある。		
17	まち歩きを踏まえた意見交換	行政コストの側の制約の中で基準以上のものを求められる際に、当事者意見を踏まえた必要性を示すことが課題となる。管理を担う行政、事業者の立場での事情をどう取りまとめるか、また当事者との相互理解も必要になる。当事者参加は市職員への啓発の側面もある。	当事者参加の仕組みの中で、行政側の意識啓発も図っていきたいと考えています。当事者意見の必要性の示し方については、今後の仕組みの検討の中で検証していくものと考えます。	-
18	まち歩きを踏まえた意見交換	総合体育館ではNTTクラリティの障害当事者によるコンサルティングで課題を抽出したということだが、チェックを丸ごとお任せするより、市内の障害者が参加して議論するプロセスのコーディネートをそういったコンサルティングの会社に任せることができると、市民参画を得た本当の意味での当事者参加になると感じる。	ご意見を踏まえて具体的な実施方法等を検討していきます。	-
19	まち歩きを踏まえた意見交換	全国的にかなり当事者参加での取組が進んできているが、意見の共有が進んでいない点が課題である。同じことを繰り返さなくても、これまでの議論から見えてきていることもあり、同じ議論を繰り返すのは時間的にも、人的資源的にも無駄が多い。必要な場面を見定めた当事者参加プロセスが必要である。	ご意見を踏まえて具体的な実施方法等を検討していきます。	-